

労働映画百選通信 No.02 2015.11

発行 ■ NPO法人 働く文化ネット 編集 ■ 清水浩之 〒101-0062 千代田区神田駿河台3-2-11 連合会館5F

あなたのおすすめ「労働映画」は？

【労働映画についてのアンケート調査】実施しています！



労働映画 スペシャルサイト
<http://hatarakubunka.net/>

いま、働くことをめぐる困難がますます高まる中で、世界の多くの国々で労働を主題にした多くの映画作品が製作され、人々の共感をあつめています。そして、映画と労働の世界との関わりについての歴史的関心もまた高まっています。日本映画も同様に労働に向き合ってきた長い歴史を持ち、現在も多くの労働映画が産み出されています。

そこで、私たちは日本の映画作品が、仕事と暮らしの実態、働く人たちの悩みと希望、あるいは働くことの意義と喜びをどのように描いてきたかを考察し、現在と未来に向けての教訓をくみとることをめざし、**日本映画百年の歴史が産んだ代表的労働映画百本**を選ぶ作業を進めています。

その活動の一環として、映画と労働の世界にご関心を持つ多くの方々に、これまでに見た日本の労働映画の中で、もっとも印象に残る作品、多くの人に見てほしいと思う作品についてお教えいただき、日本の代表的労働映画百本を選ぶにあたっての参考にしたいと考え、アンケート調査を実施することとなりました。

調査は無記名であり、ご記入いただいた内容については統計的に処理しますので、個々の調査票を公表したり、調査の目的以外に使用することは一切ございません。

つきましては、調査の主旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

2015年7月1日

NPO法人 働く文化ネット 労働映画百選選考委員会

【上映情報】秋のおすすめ労働映画

◎新作ロードショー

明日へ 《11月6日(金)から 東京・TOHOシネマズ新宿ほかで公開》

韓国で2007年に起きた実話を基にしたヒューマンドラマ。スーパーマーケットでの解雇撤回を求めて闘う主婦たち。
(2014年 韓国 監督/プ・ジョン)

ザ・トゥルー・コスト ～ファストファッション 真の代償～ 《11月14日(土)から 東京・渋谷アップリンクで公開》

最新モードを採り入れた洋服が低価格で供給される一方で、生産者たちが置かれている現況を追うドキュメンタリー。
(2015年 アメリカ 監督/アンドリュー・モーガン)

新しき民 《12月5日(土)から 東京・渋谷ユーロスペースほかで公開》

岡山・津山藩での山中一揆を題材に、必死に生きようとする農民たちの姿を力強く描き出す歴史ドラマ。
(2015年 日本 監督/山崎樹一郎)

◎名画座・特集上映

【神保町シアター】11/21～12/25「森繁久彌の文芸映画大全」…警察日記／夫婦善哉／裸の町／他

【飯田橋ギンレイホール】11/21～12/4「バレードへようこそ」「サンドラの週末」2本立

【シネマヴェーラ渋谷】11/21～12/18「巨星・橋本忍」…暁の挑戦／七つの弾丸／私は貝になりたい／他

【新宿ケイズシネマ】11/7～20「ム・ヴィオラ15周年特集」…鉄西区／ステファン・エセルの遺言／他

【池袋新文芸坐】11/10～27「健さんFOREVER あなたを忘れない」…鉄道員／網走番外地／森と湖のまつり／他

【ラピュタ阿佐ヶ谷】～12/19「昭和家庭日乗 わたしのかぞく」…人生のお荷物／男ありて／山の音／他

【川崎市市民ミュージアム】～11/29「ATG特集 役者の引力！」…サード／遠雷／ヒボクラテスたち／他

【岐阜ロイヤル劇場】11/14～27「原節子特集 其の2」…山の音／美しき母

【京都文化博物館フィルムシアター】11/10～29「食べる映画」…生れてはみたけれど／破れ太鼓／泥の河／他

【広島市映像文化ライブラリー】～11/29「映画による日本紀行」…張込み／火まつり／嵐を呼ぶ十八人／他

【福岡市総合図書館映像ホール・シネラ】11/11～29「高倉健特集 第一期」…居酒屋兆治／動乱／ホテル／他

【テーマ研究】《メディア産業》を描いた作品 資料作成:清水浩之

日本の労働映画の歴史を辿るとき、縦軸には「時代」があり、横軸には様々な職業や仕事の形態、労働の意義や現場の課題など、多岐にわたる「テーマ」が広がっている。ここでは毎回ひとつの「テーマ」をとり上げ、時代ごとにどんな作品が生まれたかを眺めていく。

第2回は《メディア産業》の現場を描いた作品を集めた。新聞、ラジオ、映画、テレビ、広告…と、時代ごとにどの「業界」が世間に注目されてきたかが見えて興味深い。映画撮影所で起こった「東宝争議」について、大島渚は“なぜフィルムで記録しなかったのか”と批判した。しかしバリエードの中には監督の黒澤明をはじめ、後年『七人の侍』を作ったスタッフ・キャストが参加していたことを考えると、野武士の襲来に備え武装する村の描写を、別の視点から見ることもできるだろう。

ジャンル:[劇]劇映画 [記]記録映画 [ア]アニメ [短]短篇 [TV]テレビ番組 [V]オリジナルビデオ 市販ソフト:[DVD][VIDEO]

[劇] 女記者(1915) 日活向島 監督/細山喜代松

[劇] 摩天楼 争闘篇(1929)

日活太秦 監督/村田実 出演/中野英治、入江たか子
経済雑誌の記者がギャング一味の悪事をあばく。

[短] 朝日は輝く(1929)

日活太秦 監督/溝口健二、伊奈精一 [DVD]

朝日新聞PR映画。伝書鳩を使った原稿輸送などを紹介。

[記] 電波に聴く(1935) P.C.L 撮影/白井茂

NHKのラジオ放送の現場を、一日の放送番組順に紹介。

[劇] 若き日の放び(1943)

東宝 監督/佐藤武 出演/高峰秀子、原節子
映画雑誌編集部に就職した女性が成長していく姿を描く。

[劇] 黒い潮(1954) 日活 監督・出演/山村聰 [VIDEO]

「下山事件」をモデルに、真実を追う新聞記者たちを描く。

[劇] 七人の侍(1954)

東宝 監督/黒澤明 出演/志村喬、三船敏郎 [DVD]

戦国時代、野武士の略奪を防ぐため農民に雇われた侍たち。武装する村は東宝争議の経験がモチーフとの説も。

[劇] 巨人と玩具(1958) 大映東京

監督/増村保造 出演/川口浩、野添ひとみ [DVD]

製菓会社の熾烈な宣伝合戦に翻弄される人々を戯画化。

[劇] ぶっつけ本番(1958) 東京映画/東宝

監督/佐伯幸三 出演/フランキー堺、淡路恵子

戦後の様々な事件を撮ったニュース映画カメラマン・松本久弥氏をモデルに、危険と隣り合わせの仕事を描く。

[TV] 事件記者(1958-66) NHK 演出/若林一郎ほか

脚本/島田一男 出演/永井智雄、原保美 [DVD]

警視庁詰めの新聞記者たちの取材合戦を描いた群像劇。

[劇] その場所に女ありて(1962)

東宝 監督/鈴木英夫 出演/司葉子、宝田明

広告代理店の営業ウーマンが、製菓会社からの新規受注を巡り、クライアントやライバルとの駆け引きを繰り広げる。

[劇] 江分利満氏の優雅な生活(1963) 東宝

監督/岡本喜八 出演/小林桂樹、新珠三千代 [DVD]

洋酒会社宣伝部に勤める男の心情を、多彩な技法で描く。

[劇] 私、違っているかしら(1966)

日活 監督/松尾昭典 出演/吉永小百合、浜田光夫

記者を夢見て就職活動に奔走する女子大生の奮闘記。

[劇] ロケーション(1984) 松竹=近代映協

監督/森崎東 出演/西田敏行、美保純 [DVD]

3日間徹夜で作品を撮り上げるピンク映画の撮影隊。

[劇] そろばんずく(1986) フジテレビほか/東宝

監督/森田芳光 出演/とんねるず、安田成美 [DVD]

広告代理店同士の熾烈な戦いを描く企業バトルコメディ。

[V] 業界くん物語(1986) ポニーキャニオン

監督/中野裕之 原作・出演/いとうせいこう [VIDEO]

テレビ、広告、ファッションなどの「業界人」の生態を描く。

[劇] トットチャンネル(1987)

東宝 監督/大森一樹 出演/斉藤由貴 [DVD]

黒柳徹子の自伝を映画化。テレビ放送開始とともに専属俳優となった女性が、失敗を重ねながら成長していく。

[劇] 社葬(1989) 東映京都

監督/舛田利雄 出演/緒形拳、江守徹 [DVD]

大手新聞社での、次期社長の座を巡る壮絶な社内抗争。

[TV] ADブギ(1991) TBS 脚本/遊川和彦

出演/加勢大周、浜田雅功、的場浩司 [DVD]

テレビドラマのアシスタントディレクター3人組の恋と苦悩。

[劇] ラジオの時間(1997) フジテレビ=東宝

監督/三谷幸喜 出演/鈴木京香、唐沢寿明 [DVD]

生放送のラジオドラマが、出演者の主張や制作者の妥協、様々なアクシデントにより全く違う内容に変わっていく。

[記] 戦ふ映画人の記録 来なかったのは軍艦だけ(1998)

日本ドキュメントフィルム 監督/清島利典

1948年8月の第3次東宝争議を、当時の関係者が証言。

[ア] アニメーション制作進行くろみちゃん(2001)

ゆめ太カンパニー 監督/大地丙太郎 [DVD]

過酷な職場として知られるアニメ業界の内幕もの。新人の制作進行係の女性が放送日に間に合わせようと奔走する。

[TV] 働きマン(2007) 日本テレビ

脚本/吉田智子 出演/菅野美穂 [DVD]

週刊誌記者の女性が、寝食を忘れて「働きマン」と化する。

[劇] クライマーズ・ハイ(2008) 東映ほか

監督/原田真人 出演/堤真一、堺雅人 [DVD]

ジャンボ機墜落事故を取材する地方新聞社の記者たち。

[劇] 舟を編む(2013) 松竹ほか

監督/石井裕也 出演/松田龍平、小林薫 [DVD]

言葉の海を渡るための「舟」=辞書編集部の人々の苦心。

[TV] 午前3時の無法地帯(2013) Bee TV [DVD]

監督/山下敦弘ほか 出演/本田翼、オダギリジョー

パチンコのデザイン会社で多忙な日々を送る女性の葛藤。

[TV] 東京トイボックス(2013) テレビ東京

演出/宮下健作ほか 出演/要潤、宇野実彩子 [DVD]

ゲーム制作会社に向向したエリートOLが、個性派クリエイターたちに納期を守らせようと悪戦苦闘する。

[TV] モザイクジャパン(2014) WOWOW [DVD]

演出/水田伸生 脚本/坂元裕二 出演/永山絢斗

東京から帰郷した青年が、地元の町をアダルト産業が

まるごと支えている現状に愕然とする社会風刺ドラマ。

[TV] なぜペンをとるのか 沖縄の新聞記者たち(2015)

毎日放送 演出/斉加尚代

鋭い論調で政権与党から敵視される、「琉球新報」編集局の日々を記録。取材活動から紙面づくりまでの動きを追う。

※このリストを引用する時には【労働映画百選より】と付記いただきますよう、お願いします。

【作品ガイド】ハケンの品格/anego/オフィスの女王

文:波多楽久

《ハケンの品格》2007年 日本テレビ 脚本/中園ミホ 主演/篠原涼子
 《anego -アネゴ-》2005年 日本テレビ 脚本/中園ミホ 主演/篠原涼子
 《オフィスの女王》2013年 韓国・KBS 脚本/ユン・ナンジュン 主演/キム・ヘス

格差社会の「緋牡丹お竜」、国境を超える

労働映画のリストを見て痛感するのが、昭和30年代の日本映画では盛んに描かれていた「労働の現場」が、昭和50年代にはすっかり姿を消してしまうことだ。それ以降、働く日本人の姿は専らテレビドラマやマンガの作り手たちが描き続け、ここで蓄積されたノウハウが、近年再び映画の企画にも反映されてきた気がする。そして今、大きなレンタルDVD店に行けば、「小津安二郎」や「山田洋次」のコーナーと同様に、テレビドラマの主要脚本家別コーナーが設けられ、様々な“労働ドラマ”が取り揃えられている。

“おごれる正社員は久しからず、今やハケンなしに会社は回らない”『プロジェクトX』でおなじみ田口トモロヲのナレーションで始まる『ハケンの品格』は、大手食品商社に3か月契約でやって来たヒロイン・大前春子が、派遣社員への差別意識を隠さない正社員たちと対立しながら、並外れた能力で社内外のトラブルを次々と解決していく、2000年代ならではのサラリー(ウー)マンコメディ。3か月限りの人間関係と割り切って業務に徹するはずが、困っている人を見殺しにはできず助太刀に駆け付ける春子さんは、昭和の娯楽映画で言うならば緋牡丹のお竜さんの役どころ。取材力に定評のある中園ミホのシナリオは、“敵役”の正社員たちの、ハケン導入前の“アットホームな職場”を失ってしまった哀しみにもスポットライトを当てている。中園・篠原コンビの前作『anego』では、一般職正社員の30代ヒロインが若手の派遣女性たちを指導する一方、出世(総合職へのチャレンジ)か寿退社かで悩む姿を描いていて、『ハケンの品格』前日譚として見ても面白い。そして韓国のリメイク企画『オフィスの女王』は、登場人物たちの恋愛要素を増やしながら、ヒロインの勤務先が韓国料理の調味料「醬(ジャン)」のメーカーだったり、2007年に起きた派遣切りを巡る労働争議が重要な伏線になっていたりと、こちらも時代とお国柄を反映した作品になっている。



[DVD] バップ



[DVD]

ポニーキャニオン

【労働映画のスターたち】第2回「香川京子」 文:若木康輔

小津安二郎『東京物語』(53)、黒澤明『どん底』(57)『天国と地獄』(63)、溝口健二『山椒大夫』『近松物語』(54)などなど。香川京子は日本映画黄金期を牽引した大監督に次々と起用され、“監督荒らし”の異名をとった。れっきとした銀幕の大スターだ。ところが、不思議なほどその印象は絢爛たる女優像から遠い。むしろほのぼのとした温かみばかりが、映画を見た者の心に残る。

1931年、茨城県生まれ。幼少時に東京市豊島区に転居。49年、映画会社各社が協賛した新人発掘イベントで5,000人以上の中から選ばれ新東宝に入社した。自著『愛すればこそ スクリーンの向こうから』(勝田友巳・編/08・毎日新聞社)によると、華やかな世界に興味は無かったのに応募したのは、自分だけの仕事と言えるものが欲しかったからだという。戦後、女性の社会的地位は参政権を獲得して著しく向上した。その高揚を敏感に吸収した少女の姿が目につかぶ。

新東宝では素直な演技の資質と清潔な美しさが愛され、50年のデビュー以来、主に良家のお嬢さん役で次々と映画に出演。しかし、初めて女優としての手応えを掴んだのは、貧しい家を舞台にした成瀬巳喜男『おかあさん』(52)だった。洋裁学校に通いたいのを我慢して、未亡人の母・田中絹代のクリーニング業を明るく手伝う娘役。地道に働く庶民の生活を細やかに描写したこの映画に出たことが転機となり、新東宝を離れてフリーに。多くのスターが映画会社と専属契約を結んでいた時代に、自分の納得できる仕事をするため、異例の選択をした。

フリーになって間もなく出演した『ひめゆりの塔』(53)では、今井正の粘る演出に耐え、演技を通して社会に問題提起できる女優の意義と責任を深く自覚する。東宝争議やレッドパージで追放された映画人達による独立プロダクション作品に、上記の巨匠の大作と同じぐらい積極的に参加しているのは、そのためだ。家城巳代治『ともしび』(54)の農家の娘役、山本薩夫『人間の壁』(59)の「勤評闘争」に取り組み教師役などを見ると、香川さん(親しみをこめて、さん付け)の女優としての魅力アーリズムの中でさらに輝く聡明さ、純粹さーが、自立した生き方と切っても切り離せないものだったことがよく分かる。

現在も現役で、孫ほど年の離れた世代の映画に出演。若者たちを見守るスナックのオーナーを演じた池田千尋『東京の日』が、10月下旬から都内を皮切りに全国で公開される。

若木康輔(わかきこうすけ) 1968年北海道生まれ。テレビ番組・ビデオの構成作家。映画ライター。ドキュメンタリーカルチャーマガジン「neone」編集委員。http://webneo.org/



おかあさん(1952)



山椒大夫(1954)



人間の壁(1959)

【レポート】第21回 労働映画鑑賞会

2015年9月10日(木)「仕事の中の自分を見つめて」

7～9月期は、「いま働くということ」を統一テーマにプログラムを組みました。

上映作品 **シップヤードの青春** 1969年/44分 監督/神馬玄佐雄
 日本造船工業会がリクルート用に企画し、岩波映画製作所が制作したPR映画。
 入社3年目、20歳の造船所溶接工を主人公に、働く若者たちの日常生活を描いた
 セミ・ドキュメンタリー作品。主人公が青春や前途を見つめる姿を真正面から取り上げ、
 現代の「労働の質」のテーマにも共通する。



この作品の同時代に精密機器メーカーに入社した豊泉則之氏(JAM金属労働会館
 理事長)から、モノづくり産業に入社した当時を振り返ってコメントをいただきました。

「映画を観て自分の人生を振り返り、働くこととはどういったことだったのか考えさせられた。入社1～2年当時、
 自分も自分の仕事の役割が何なのか悩んだり、みんなで話したりして仕事と向き合ってきたと思う」
 「映画の主人公となったこの若者が、いったいこの後どんな人生をたどったのか、とても気になる」
 「昔は職場の人間関係がより深く、会社の対応も今よりも丁寧だったと思う。今は当たり前感覚が共有されていない
 のではないか。映画の中にあつたようにもっと働く人たち同士や上司との人間関係が充実していけばよいのにと
 感じている」

【レポート】第22回 労働映画鑑賞会

2015年10月8日(木)「工場をつなぐ闘いの輪」

2015年度10～12月期は、「伴を慕う心、連帯のかたち」を統一テーマにプログラムを組み
 ました。今回の作品は、製作・配給元の共同映画株式会社のご協力により、倉庫に保管
 されていた16ミリフィルムを働く文化ネットが修復し、デジタル化したものを上映しました。



京浜労働者 1953年/45分 演出/野田真吉ほか
 大小の工場が密集する京浜工業地帯における労働実態と、労働組合の生活防衛の闘い、
 学習・文化・活動を通じて、工場を超える連帯の輪が広がっていく様子を描いた作品。



日鋼愛蘭 197日の闘い 1955年/24分 監督/菅家陳彦
 デフレ経済下の1954年、日本製鋼所室蘭製作所(従業員約3,700人)における大量指名
 解雇(901人)をめぐる長期間の労働争議を描いた作品。

【参加者からの感想】

- ・不条理なことに立ち向かう姿勢が素晴らしく、我々も引き継いでいかなければならないと感じた。
- ・総評・高野事務局長の肉声や日産の職場集会など、本でしか知らなかったことを実際に映像として見る事ができた。
 映像として大変貴重なもの。
- ・映像の迫りに圧倒された。また表情の撮り方も素晴らしかった。
- ・この時代の“連帯”が目に見えるものだった。

【労働映画鑑賞会】10～12月の統一テーマ：伴を慕う心、連帯のかたち

働く文化ネットでは、毎月第2木曜日に労働映画鑑賞会を開催しています。お気軽にご参加ください。
 場所:連合会館 2階 201会議室(地下鉄 新御茶ノ水駅 B3出口すぐ)
 参加費:無料(事前申込不要、どなたでも参加できます)

第23回「時を超える連帯の文化」

日時:11月12日(木)18:30～20:30 (18:00開場)
 上映作品 **友子儀式** 北海道夕張市真谷地炭鉱楓坑 1973年/30分
 江戸時代からの古いしきたり、炭鉱夫同士の友愛組織「友子制度」が現存していた
 夕張の真谷地炭鉱楓坑での非常に貴重な映像記録です。映画上映の前に、
 友子研究の第一人者、村串仁三郎先生(法政大学名誉教授)から、友子制度の
 概要とこの映画の見所などについて、ご講演をいただくこととしています。

第24回「子どもを見守る地域の絆」

日時:12月10日(木)18:30～(18:00開場)
 上映作品 **ボタ山の絵日記** 1957年/39分 監督/徳永瑞夫
 筑豊の炭鉱地帯で暮らす生活困窮児たちを描いたセミ・ドキュメンタリー作品。

